

# KORG SoundLink

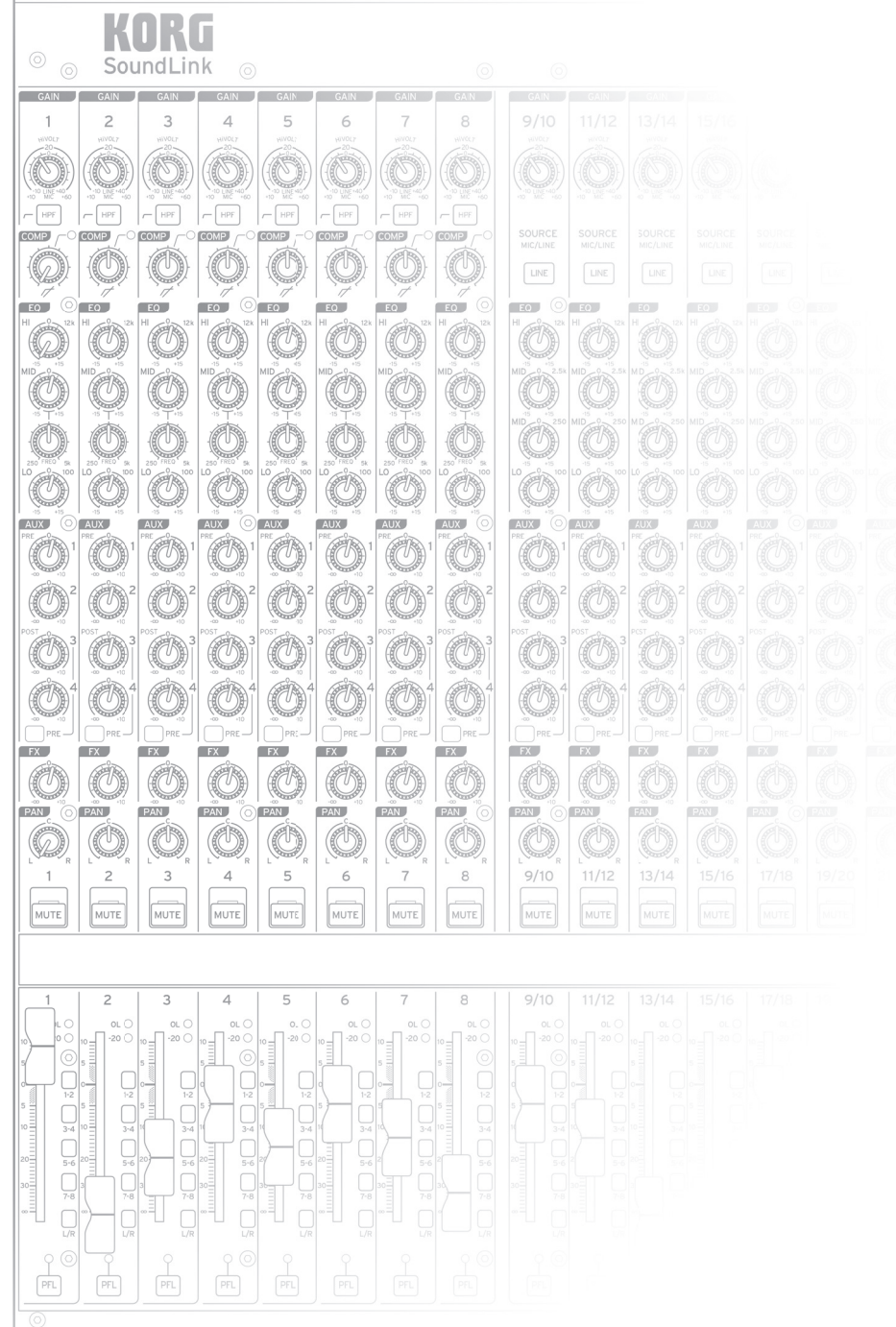
## MW-2408

## MW-1608

### HYBRID ANALOG/DIGITAL MIXER

## クイックスタートガイド

取扱説明書はコルグウェブサイト (<https://www.korg.com/>) からダウンロードしてください。







# 安全上のご注意

## ご使用になる前に必ずお読みください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

誤った取扱いをした場合に生じる危険とその程度を、次の区分で説明しています。

 <b>警告</b>	誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容を示しています。
 <b>注意</b>	誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性がある内容を示しています。
<b>注記</b>	誤った取扱いをすると、製品の故障、誤動作や物的損害が発生する可能性がある内容を示しています。

## 本文中や本体に使われている図記号の意味は、次のとおりです

次の記号は、注意（警告を含む）を促す内容があることをお知らせするものです。



一般的注意



感電注意

次の記号は、禁止の行為であることをお知らせするものです。



禁止



分解禁止



水まわりなどでの  
使用禁止



水ぬれ禁止



ぬれ手禁止

次の記号は、行為を強制したり指示することをお知らせするものです。



指示



電源プラグを抜く



アースを取り付ける

## 警告

### 電源コード、電源プラグ、コンセント



- 電源コードを傷つけない。  
電源コードを無理に曲げたり、傷つけたりしないでください。またストーブなどの熱器具に近づけたり、電源コードの上に重いものを載せないでください。電源コードが破損すると感電、火災の原因になります。  
電源コードが破損したときは、コルグお客様相談窓口へ修理をご依頼ください。



- 電源は必ず交流 100V を使用する。  
誤って接続すると、感電、火災、故障の原因になります。



- 付属の電源コード以外は使用しない。また、付属の電源コードは他の製品に使用しない。  
故障、発熱、火災などの原因になります。



- 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。  
ほこりを放置したまましていると火災の原因になります。



- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。  
感電のおそれがあります。



- 電源プラグや電源コードが破損していたりコンセントの差し込みがゆるい場合は使用しない。  
感電、火災の原因になります。電源プラグや電源コードに破損を見つけたら、コルグお客様相談窓口にて修理を依頼してください。



- 電源コードをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って引き抜く。  
電源コードを引っ張って破損すると、感電や火災の原因になります。



- 長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いておく。  
電源をオフにしても、製品は電源から完全には切断されていません。電源コードを接続したまま長時間放置すると、感電、火災、故障の原因になります。



- 雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない。  
感電するおそれがあります。



- アース（接地）を必ず取り付ける。  
アースを取り付けていないと故障などで漏電したときに感電するおそれがあります。  
コンセントにアース端子がない場合は、必ず販売店または最寄の電気工事店にご相談ください。

## 設置、接続、保管



- 極端に高温、低温になる場所に置かない。  
直射日光が長時間当たる場所や暖房機器の近くなど極端に高温になる場所に置くと動作が不安定になったり、熱でパネルが変形したり、火災を引き起こしたりするおそれがあります。また、氷点下の屋外など極端に低温になる場所に置くと動作が不安定になるおそれがあります。



- ほこりの多い場所に本製品を置かない。  
火災や故障の原因になります。



- 湿気が多い場所や、水滴がかかる場所に置かない。  
浴室、シャワー室、雨天の野外などに設置、保管しないでください。本体内部に水が入ると、感電、火災、故障の原因になります。



- 本製品とほかの機器を接続するときは、必ずすべての機器の電源を切る。  
不注意な操作を行うと感電やスピーカーシステムなどの破損、誤動作の原因になります。



- 本製品を移動するときは、必ず電源コードなどすべての接続ケーブルを外す。  
ケーブルで周囲の人が転倒したり、周囲の機器が落下して感電、故障の原因になります。

## 分解禁止



- 本製品の内部を開けたり、分解や改造したりしない。  
感電、火災、けが、または故障の原因になります。  
内部の点検や修理はコルグお客様相談窓口にご相談ください。



- 修理や部品の交換などをお客様自身で行わない。  
感電、火災、けが、故障の原因になります。取扱説明書に書かれていないことは絶対にしないでください。修理や部品の交換については必ずコルグお客様相談窓口にお問い合わせください。

## 水濡れ注意



- 本製品の上や近くに液体の入ったもの（コップや花瓶など）を置かない。  
本体内部に水が入ると、感電、火災、故障の原因になります。  
内部に水が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜き、コルグお客様相談窓口にご依頼ください。

## 火気に注意



- 本製品の上や近くにろうそくなど火気のあるものを置かない。  
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

## 異常や破損に気付いたら



- 異常が生じたときは、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
  - 製品から異音や異臭、煙が出たとき
  - 製品の内部に異物が入ったとき
  - 使用中に音が出なくなったとき
 そのまま使用し続けると、感電や火災、または故障の原因になります。コルグお客様相談窓口にご依頼ください。



- 本製品を落下させるなどで破損した場合は、破損箇所には触れずにすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。  
そのまま使用を続けると感電、火災、故障の原因になります。コルグお客様相談窓口にご依頼ください。






## 大音量に注意





- 大音量や不快な程度の音量で長時間ヘッドフォンやスピーカーを使用しない。  
大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。

## ⚠ 注意



### 設置、接続、保管

-  ● 不安定な場所や振動する場所に本製品を置かない。  
本製品が落下や転倒すると、お客様のけがや本製品の破損につながるおそれがあります。
-  ● 通気を妨げるような場所に置かない。  
壁に密着させたり、もので覆ったりしないでください。  
通気が妨げられると内部温度が上昇して、故障や火災の原因になります。
-  ● 温度変化が激しい場所（窓際など）に置かない。  
本製品の内部に結露が発生して故障の原因になります。
-  ● 電源プラグは、容易に手が届く位置のコンセントに接続する。  
異常時にすぐに電源プラグが抜けないと、事故や火災につながるおそれがあります。
-  ● 地震などによる落下防止の処置をする。  
市販の耐震パッドなどで対策してください。  
本製品が落下するとけがや破損の原因になります。

### 取り扱い

-  ● 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。  
本製品が落下して、けがや故障の原因になります。
-  ● 本製品のすき間に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や指などを入れない。  
けがや感電、火災、故障の原因になります。

### 大音量に注意

-  ● 電源をオン/オフする前に、必ず本製品や接続している機器の音量を最小にする。  
大きな音が出て、聴力障害や故障などの原因になります。
-  ● パワーアンプ（パワードスピーカーを含む）をつないで使用するときは、パワーアンプの電源を最後に入れる。また電源を切る時は、最初にパワーアンプの電源を切る。  
大音量が出力されると聴力障害や機器の故障などの原因になります。

### お手入れ



- お手入れするときは、電源プラグをコンセントから抜く。  
電源コードが接続されたままだと、感電につながるおそれがあります。

## 注記

### 設置、接続、保管



- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して設置する。  
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。

### 取り扱い



- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。  
故障の原因になります。



- 本製品の上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。  
パネルが変色 / 変質する原因になります。



- 製品の移動や急な冷暖房などにより周囲の温度が極端に変化したときは、数時間放置してから電源を入れる。  
温度変化により結露が発生しているおそれがあります。すぐに電源を入れると故障の原因になります。

### 使用中



- イコライザーやフェーダーをすべて最大には設定しない。  
接続した機器によっては、発振したりスピーカーを破損したりする原因になることがあります。

### お手入れ

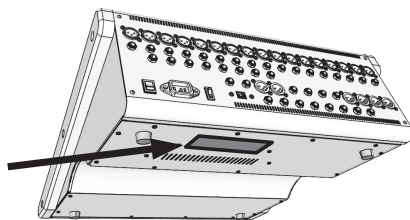


- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。  
変色 / 変質の原因になります。外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭いてください。



- フェーダーやコントロールにオイルやグリスなどを適用しない。  
電気接点の接触やフェーダーの動きが悪くなる場合があります。

本製品は、IEC62368-1の安全規格に準拠します。  
安全表示のラベルは本体底面にあります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

※ すべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

## はじめに

このたびは KORG SoundLink ハイブリッド アナログ デジタル ミキサー MW シリーズをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品の機能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくため、ご使用前に本書をよくお読みください。

また、お読みになったあとも大切に保管してください。

## 本書の表記について

- 製品の仕様および外観は予告なく変更することがあります。
- 本書で使用しているイラストの形状や表示が、実際の製品と一部異なる場合があります。
- 本書で使用されている記号



NOTE

性能や機能を正しく活用できなくなる可能性のある事項について、注意すべき内容の説明が記載されています。



HINT

知っておくと役に立つ補足情報が記載されています。

- モデルに関連する記載について
  - 本書では、MW-2408 と MW-1608 を総称して「MW」と表記することがあります。
  - 本書の製品イラストは、特にことわりがない限り MW-2408 の図を掲載しています。
  - MW-2408 と MW-1608 で仕様が異なる場合、MW-1608 のみの仕様は { } で囲って表記します。(例 :CH9/10 ~ 23/24 { ~ 15/16})

iPhone™, iPad™

iPhone, iPad は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

## | Greg Mackie からの言葉

私は、40年以上にわたってミキサーを設計してきました。そして数年前にはコンパクトなオールデジタルミキサーの制作にも携わりました。タレントショー、飛び入り方式のショー、一晩で3バンドのクラブでの演奏など、しばらくの間、私自身もこのミキサーを使用していました。とにかくフィードバックに神経をすり減らし、初めてミックスを担当するグループの演奏中、フィードバックは頻発し、そんな中マイクは雑に扱われ、ボーカリストの声は小さく、とあるアクトでは3つのマイク、次は16個のマイクを、ええと、フィードバックについては言いましたっけ？

そのような経験を経て、オールデジタルのインターフェースでは、変更や修正を素早く行うことができない事に気付きました。メニューやスクロールが多すぎる！しかし一方で、デジタルのイコライゼーション、エフェクト、そしてプリセットは非常に魅力的でした。

SoundLinkは私とPeter Watts、KORGの3者が共に作り上げたハイブリッドソリューションです。ライブミキシングで必ず起こる緊急事態に対しては、アナログ特有の即座のコントロールを可能にし、ここぞという時には高品質なデジタルの力が発揮されるのです。



## | M&WによるSoundLinkの特徴紹介

**ユニークなハイブリッドデザイン。**「ハイブリッド」と主張する多くのミキサーは単にデジタルエフェクトを搭載しただけに過ぎません。SoundLinkは、完全なアナログ-デジタル-アナログ信号経路はアナログの分かり易さと、シーンメモリー、パラグラフィックEQ、10個同時エフェクト等を含むデジタル特有のメリットを提供する真正正銘の「ハイブリッドミキサー」です。

80年代の伝統的なTridentレコーディングスタジオコンソールをデザインした1人である**Peter Wattsによるクラシックアナログサウンド。**マイクプリアンプ、コンプレッサー、およびチャンネルEQは、デジタル特有の耳障りな特徴を排除して、リッチで自然な音を作り上げます。

**Greg Mackie 監修の使い易いデザインとスマートな機能**は、予測不可能なライブパフォーマンスにおいて、初心者であっても簡単なミキシングを可能にします。さらに、Breakスイッチのような実用的で便利なスイッチ類、1/8インチのフロントパネル入力ジャック、アクティブスピーカーやモニターにすばやく接続するためのXLR出力、24バンドスペクトラムアナライザーなど豊富な機能を兼ね備えています。

**グループ出力を備えた8バス構成。**SoundLinkは、よく見られる2本または4本ではなく、8本もの独立した出力バスを備えているためレコーディングやライブミキシングに最適です。DAWに8つのインターフェースチャンネルを接続したり、ライブサウンド用にさまざまな出力の組み合わせを試してみてください。

**Peter Wattsがデザインしたマイクプリアンプ**（モノラルおよびステレオチャンネル）は16.5Vもの余裕のある内部電圧で駆動され、同等価格のアナログまたはデジタルミキサーと比較しても大きなヘッドルームを備えています。そして、このマイクプリアンプの自然な暖かさを、ボーカリストは必ず気に入ることでしょう。

**最高のアジャスタブルフィードバックコントロール。**他製品にありがちな不安定な挙動は無く、即座にフィードバックを除去します。信じてください！

ボタンひとつで複数の入力チャンネルのON/OFFをを切り替える**ミュートグループ機能**は、このクラスでは初のものとなります。ステージ上のミュージシャン、サウンドチェック、他の楽器が演奏を止めてからのソロアコースティックナンバー、ドラムソロ、教会の礼拝のさまざまなパート（聖歌隊、プレイズバンド、牧師）、または演劇中の合図等、様々な設定を保存できます。

**1ノブ操作のレコーディングコンソール品質のコンプレッサー。**コンプレッサーはより良いボーカルとドラムサウンドを作るために欠かせませんが、その非常に複雑な設定を使いこなせる人は多くありません。SoundLink の価格帯にある他のいくつかのミキサーはシングルノブコンプレッサーを備えています…しかし、Peter Watts による洗練されたスタジオクラスの音質を提供できるのは、SoundLink だけです。

**ユニークな 31 バンドパラグラフィックイコライザー。**一度に 31 バンドの周波数帯を使うのではなく、Greg はマルチバンドイコライザーのほんの数バンドが音響問題を修正するために最も頻繁に使われることに着目しました。そのため、彼は SoundLink を 31 バンドの中の任意の 9 バンドの周波数ポイントを選択し、それらを同時にブースト/カット出来るようにデザインしました。既にチャンネルストリップのアナログ EQ が楽器またはボーカルの音作りを幅広くカバーしているため、この使い方ががもっともシンプルで効果的です。

「Musician's Phones」コントロール機能を備えた**特別なミュージシャンモニターセクション**。ミュージシャンの中には、インイヤーマニターやフロアモニターで自分の楽器や音声をもっと聞きたいと思う人もいます。これを他のミキサーで実現するには、複雑な作業が伴います。SoundLink では、これをたったワンノブで調整することが可能です。

**コルグの有名な 32 ビットデジタルエフェクト** - 一度に 10 個！コルグは、音楽業界に実用的で高品位なデジタルエフェクトが根付くまでの歴史を作り上げてきた数少ない老舗メーカーです。

**Audiophile Velvet Sound ブランドの高級 A/D & D/A コンバーター。**Velvet Sound は「黄金の耳」を持つオーディオ愛好家に好まれるトップブランドの 1 つです。Velvet Sound によって SoundLink は、自然でピュアな音 (全高調波歪率 0.004%) を実現しました。

シルクのように滑らかな操作感と耐久性を併せ持った **ALPS 社製のフェーダーとロータリーボリューム**を採用しました。

Greg と Peter は、DAW プログラムに代わって、より実用的なソリューションを提案します。付属される **iZotope™RX Elements** ソフトウェアを使用して、録音されたハムノイズや音割れの除去、室内の音響に関わる問題等を簡単に修正することができます。



# 目次

安全上のご注意	1
はじめに	4
本書の表記について	4
Greg Mackie からの言葉	5
M&W による SoundLink の特徴紹介	5
かんたんセットアップ	8
手順 1：電源コードを接続する	8
手順 2：楽器や外部機器を接続する	8
手順 3：本機と外部機器の電源を入れる	9
手順 4：各セクションの音量を調節する	9
手順 5：内蔵デジタルエフェクトを使う	10
接続	11
接続例 1（ライブ、イベントなど）	11
接続例 2（パーティー、レコーディングなど）	11

# かんたんセットアップ

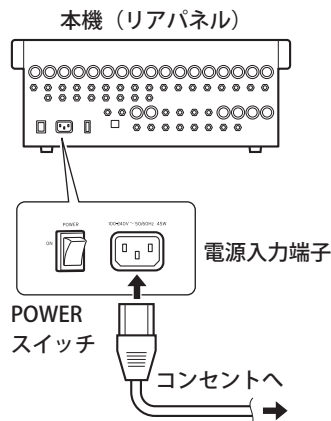
ここでは、本機に接続した楽器やマイクロフォンの音声をスピーカーやヘッドフォンで出力して、音量調節を行うまでの簡単な手順を説明します。

## 手順1 電源コードを接続する

### 警告

- 電源は必ず AC100V を使用してください。
- 電源コードは必ず付属のものを使用してください。  
ほかの電源コードを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。

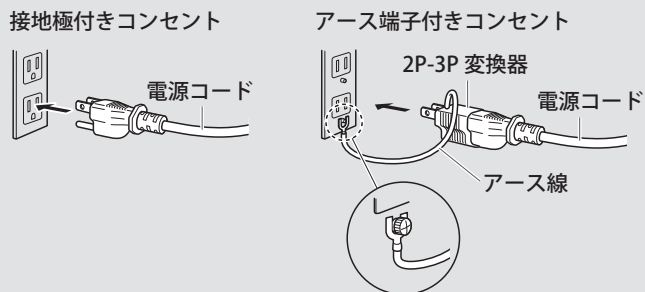
1. 本機リアパネルの POWER スイッチがオフになっていることを確認する。



2. 付属の電源コードを本機リアパネルの電源入力端子に接続する。

### 警告

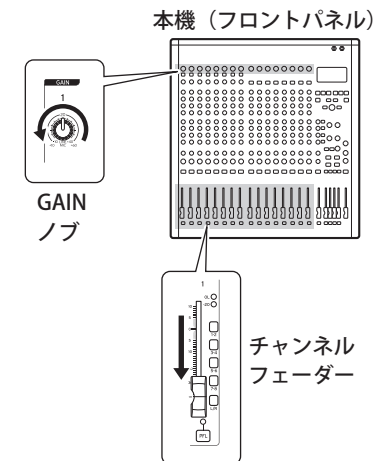
- 感電と機器の損傷を防ぐために、必ずアース (接地) 接続を行ってください。  
コンセントにアース端子がない場合は、必ず販売店または最寄りの電気工事店にご相談ください。



- アースの取り付けは、コンセントにプラグを差し込む前に行ってください。
- アースを外すときは、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。  
漏電していると感電するおそれがあります。

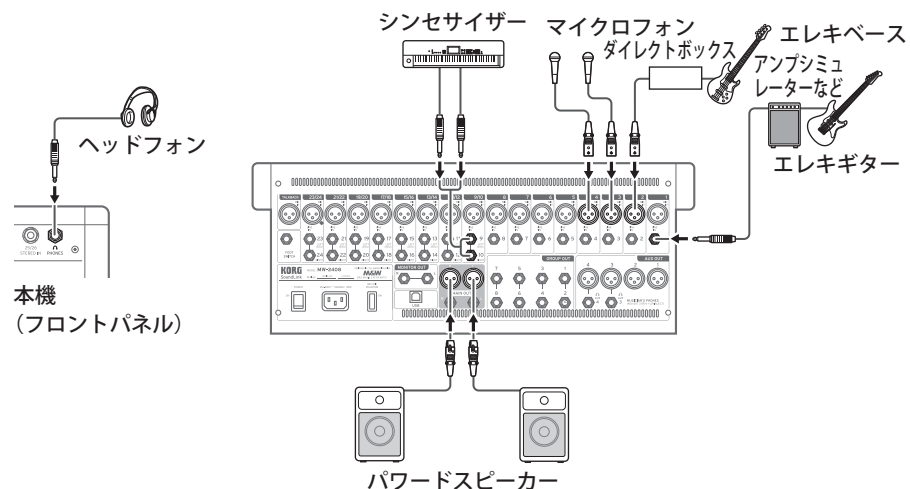
## 手順2 楽器や外部機器を接続する

1. 全チャンネルの GAIN ノブとチャンネルフェーダー、およびマスターコントロールセクションの全ノブとフェーダーを最小にする。
2. 楽器やマイクロフォン、スピーカーなどを本機に接続する。
  - 本機の端子の種類や必要なケーブルについては、「取扱説明書 - 端子 / コネクターの種類と接続」をご覧ください。  
リアパネルの各端子の機能については、「取扱説明書 - リアパネル」をご覧ください。



### 警告

接続は必ずすべての機器の電源をオフにした状態で行ってください。  
不注意な操作を行うと感電やスピーカーシステムなどの破損、誤動作の原因になります。

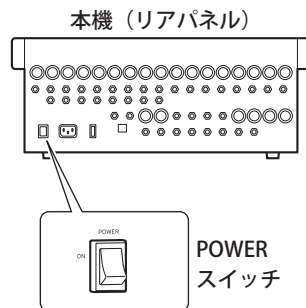


## 手順3 ▶ 本機と外部機器の電源を入れる

### ⚠ 注意

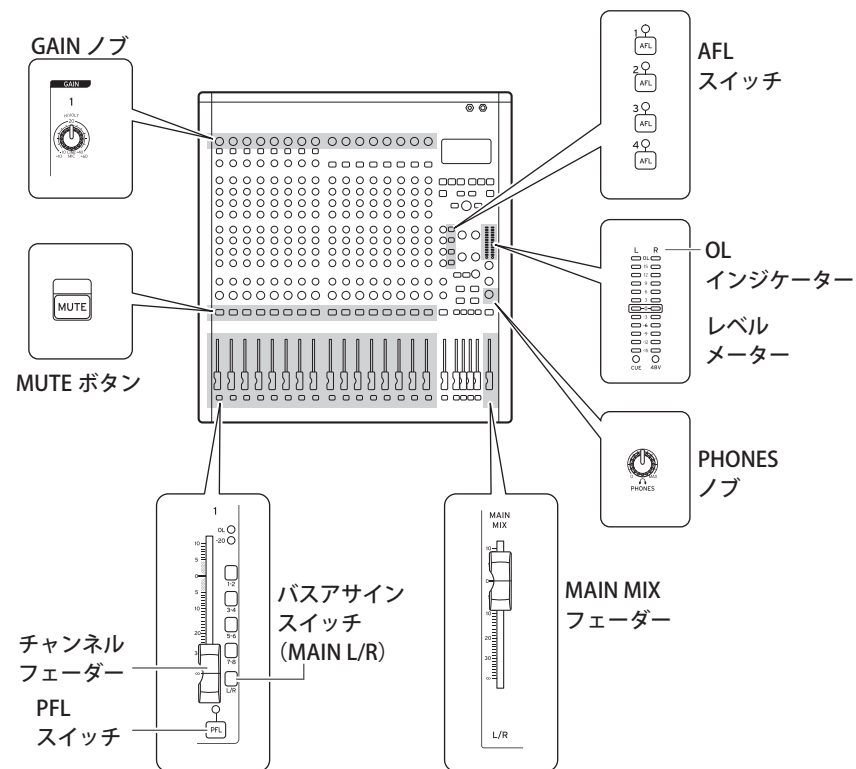
- 電源を入れるときは必ず以下の順番で行ってください。  
大音量が出力されると、聴力障害や機器の故障などにつながる恐れがあります。
- ファンタム電源をオンにする場合は、必ずパワーアンプやパワードスピーカーなどの電源を切った状態で操作してください。

1. 入力機器（楽器、マイクロフォンなど）の電源を入れる。
2. 本機リアパネルの POWER スイッチをオン（ON）にする。
3. 出力機器（パワードスピーカーなど）の電源を入れる。



- エレキギターやエレキベースを本機に直接接続すると、ノイズが生じる場合があります。ダイレクトボックスやアンプシミュレーターを使って本機に接続することをおすすめします。
- 電源を切るときは、出力機器→本機→入力機器の順に切ってください。

## 手順4 ▶ 各セクションの音量を調節する



1. 本機のレベルメーターを確認しながら楽器やマイクロフォンの音を出し、機器を接続した各チャンネルの OL インジケーターが一瞬点灯する程度に各チャンネルの GAIN ノブを調節する。
2. 使用するチャンネルの MUTE（消音）機能を無効（LED 消灯）にし、バスアサインスイッチ（MAIN L/R）を有効（）にする。
3. すべての PFL スイッチと AFL スイッチが無効（）になっていることを確認する。
4. MAIN MIX フェーダーを「0」の位置に合わせる。

5. 各チャンネルのフェーダーを操作して、チャンネル間の音量バランスを調節する。
6. MAIN MIX フェーダーで全体の音量を調節する。



ヘッドフォンの音量を調節するには、PHONES ノブを操作してください。

## 手順 5 ▶ 内蔵デジタルエフェクトを使う

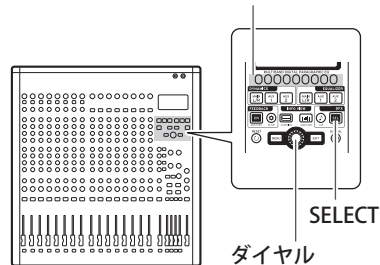


内蔵デジタルエフェクトについて詳しくは「取扱説明書 - DFX (デジタルエフェクト)」をご覧ください。

1. FX MUTE ボタンで内蔵デジタルエフェクトのミュートを解除する。
2. FX RETURN フェーダーでエフェクト音のレベルを適度に上げる。
3. FX セクションの SELECT ボタンを押す。  
「DFX TYPE SELECT」画面が表示されます。



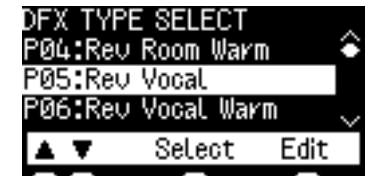
ファンクションボタン



4. ダイヤルを回して目的のエフェクトタイプにカーソルを合わせ、ダイヤルを押して決定する。



ファンクションボタン「▲」/「▼」でもエフェクトタイプを選択できます。押すと即座に切り替わるので、効果を確認しながら切り替えることができます。

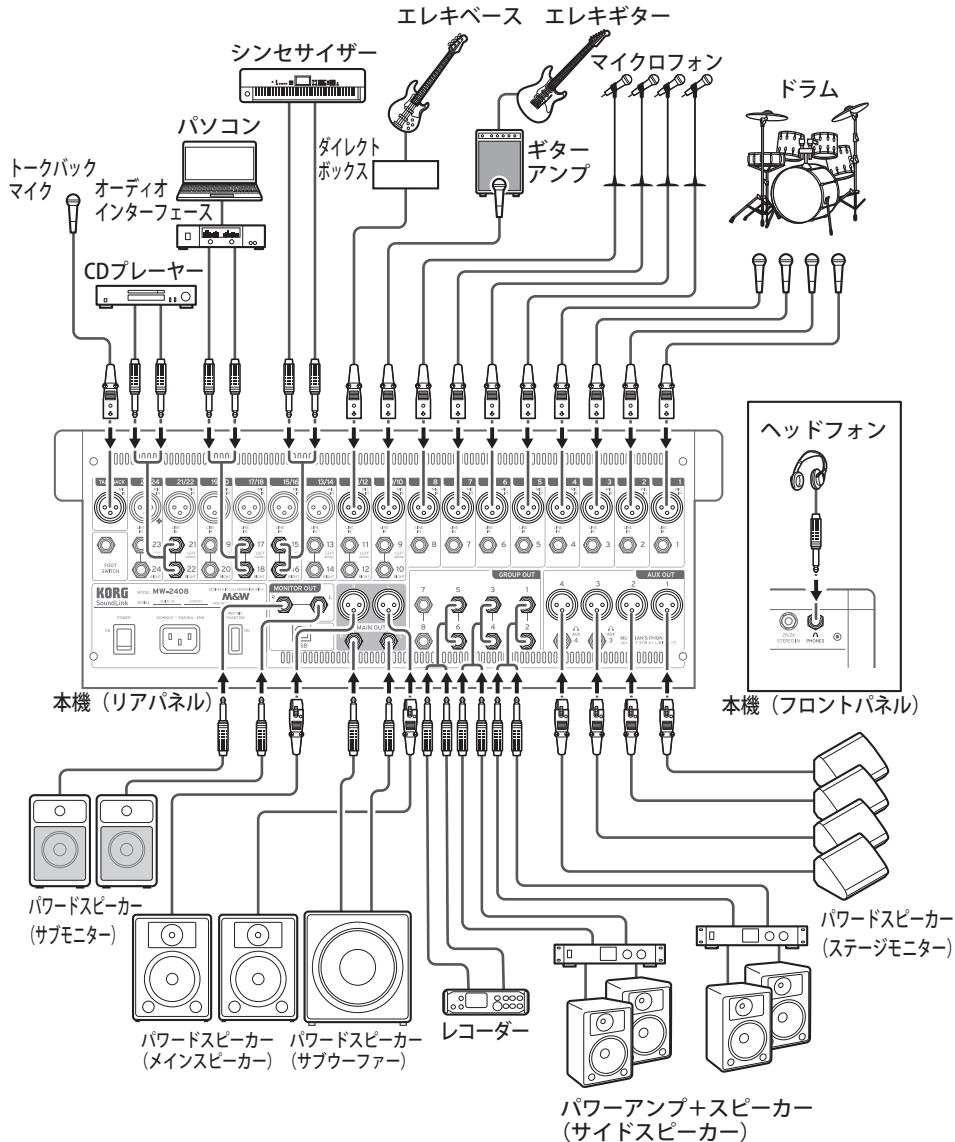


5. チャンネルの FX ノブでエフェクトに送るレベルを調節する。
6. FX RETURN フェーダーで全チャンネルのエフェクト音のレベルを調節する。

# 接続

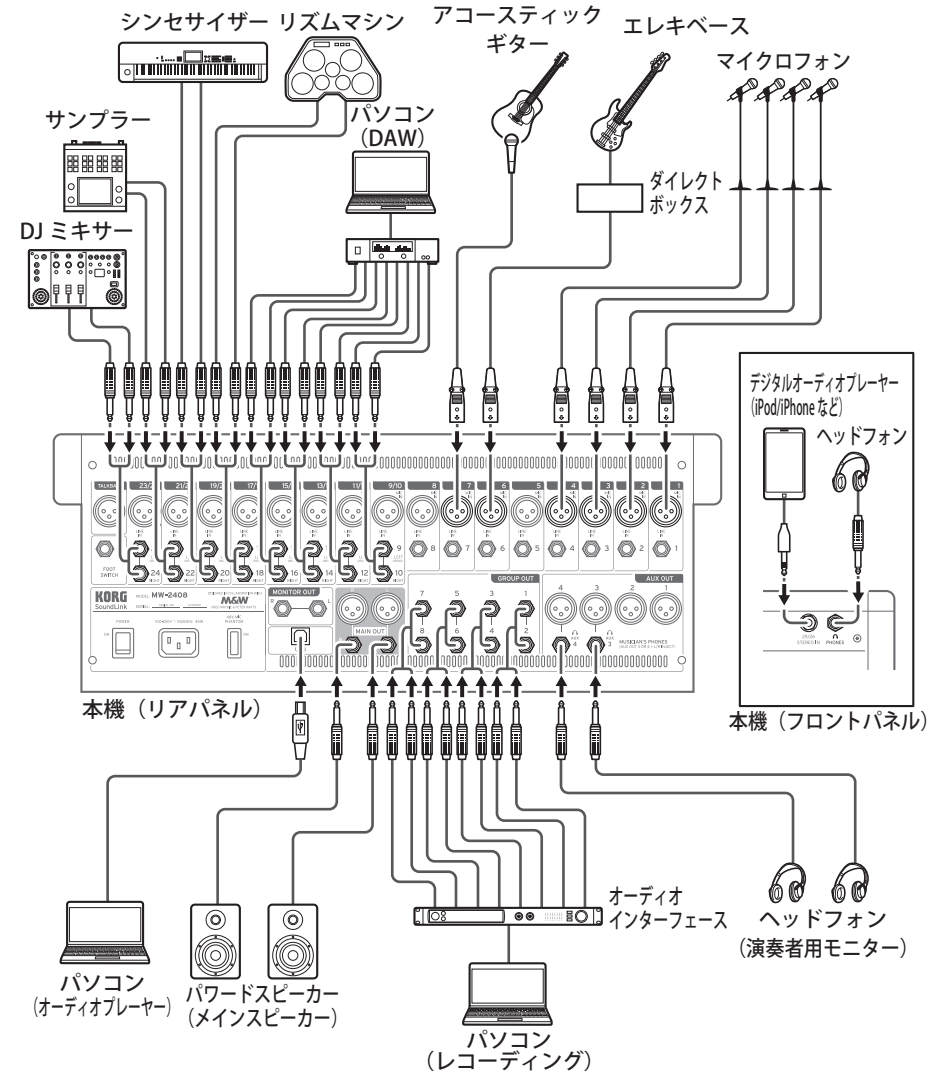
## 接続例 1 (ライブ、イベントなど)

**NOTE** エレキギターやエレキベースを本機に直接接続すると、ノイズが生じる場合があります。ダイレクトボックスやアンプシミュレーターを使って本機に接続することをおすすめします。



## 接続例 2 (パーティー、レコーディングなど)

**NOTE** エレキギターやエレキベースを本機に直接接続すると、ノイズが生じる場合があります。ダイレクトボックスやアンプシミュレーターを使って本機に接続することをおすすめします。



# 保証規定 (必ずお読みください)

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類（ヘッドフォンなど）は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はお買い上げ日より1か年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有償となります。
  - ・ 消耗部品（電池、スピーカー、真空管、フェーダーなど）の交換。
  - ・ お取り扱い方法が不適当のために生じた故障。
  - ・ 天災（火災、浸水等）によって生じた故障。
  - ・ 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
  - ・ 不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
  - ・ 保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
  - ・ 本保証書の提示がない場合。尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より3か月以内に限り無償修理いたします。
3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。  
This warranty is valid only in Japan.
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。詳しくは、お客様相談窓口までお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなる場合がありますので、あらかじめお客様相談窓口へご相談ください。発送にかかる費用は、お客様の負担とさせていただきます。
6. 修理中の代替品、商品の貸し出し等は、いかなる場合においても一切行っておりません。  
本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損害につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

## お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

## コルグ MW-2408 / MW-1608 保証書

本保証書は、上記の保証規定により無償修理をお約束するものです。

お買い上げ日            年            月            日

販売店名

# アフターサービス

## 保証書

本製品には、保証書が添付されています。  
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。  
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

## 保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。  
保証期間中の修理  
保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。  
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

## 保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお客様相談窓口へお問い合わせください。

## 修理を依頼される前に

故障かな？とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。それでも異常があるときは、お客様相談窓口へお問い合わせください。

## 修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

## ご質問、ご相談について

修理または商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

## WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。

- Use of this product outside of Japan could be dangerous and could invalidate the manufacturer's or distributor's warranty.
- Any service provided by properly qualified personnel is not available if purchased outside Japan.
- Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

## お客様相談窓口 0570-666-569

PHS等一部の電話ではご利用できません。固定電話または携帯電話からおかけください。  
受付時間 月曜日～金曜日 10:00～17:00（祝祭日、窓口休業日を除く）

サービス・センター:  
〒168-0073東京都杉並区下高井戸1-15-10



---

# KORG INC.

4015-2 Yanokuchi, Inagi-City, Tokyo 206-0812 Japan

© 2020 KORG INC.

[www.korg.com](http://www.korg.com)